



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会
〒621-8585
京都府亀岡市篠町篠野田 1-1
TEL 0771-25-7313
FAX 0771-25-7312
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/>

病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

| | |
|--------------------------------------|-----|
| ごあいさつ | 1 |
| 新型CTを活用した診断及び治療 について〔消化器科編〕 | 2・3 |
| 糖尿病教室からのお知らせ | 4 |
| 当院初の認定看護師(皮膚・排泄ケア) が誕生しました | 5 |
| トピックス | 6 |
| ふれあい看護体験について 薬剤科実習生便り 病院職員紹介 | |
| 地域連携医のご紹介 | 7 |
| 井上耳鼻咽喉科医院 ひがしはら内科眼科クリニック | |
| 編集後記 | 8 |
| 広報誌読者からのご意見等募集案内 | |
| アクセスマップ | 8 |



ごあいさつ

厳しかった今年の夏の暑さもようやく和らぎ、秋らしく過ごしやすい季節になってまいりました。市民の皆様には常日頃、市立病院の運営につきましてご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

お蔭様で市立病院は現在開院9年目を迎えています。今年の12月には病院の医療の質と安全性を向上させることを主な目的として、電子カルテを導入するために現在準備を行っています。

電子カルテとは、今まで紙のカルテに記入していた医師や看護師の診療記録やいろいろな検査の結果などの情報をコンピューターに入力し、電子化された情報として診療に役立てていく仕組みのことをいいます。

この電子カルテを導入することによって、これらの電子化された情報を病院内に作られたコンピューターのネットワーク上に保管して必要なときに表示することができるようになり、患者様の病状や診療の方針などが、医師、看護師をはじめとする病院のスタッフに明確に、迅速に伝わり、共有されることによって、結果として医療の質と安全性の向上につながると考えられます。

また電子カルテはこのほかにも、今まで理解し難かった検査結果をわかりやすいグラフにして患者様への説明に使ったり、会計などの待ち時間を短くすることにも役立つことが期待できます。

病院全体の診療の仕方が大きく変化することになりますので、この電子カルテが順調に動き出すまでにご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、市民の皆様におかれましては何卒ご理解をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

亀岡市立病院 病院長 上田 和茂



新型CTを活用した診断及び治療について〔消化器科編〕

この度の最新のCT装置と、得られた画像データを解析するワークステーションの導入は、あらゆる診療科で非常に有効に活用されています。私が担当する消化器内科領域におけるメリットは大きく分けて「画像診断」と「診療支援」の2点にありますが、今回はこれらのメリットと、特に肝臓がん診療における実際の活用法を紹介します。

まず、画像診断のメリットとは「以前よりも詳細な画像情報が得られる」ということです。以前のCT装置では一般的に身体を5mmの幅で輪切りにした画像が得られていましたが、新しいCT装置では最高0.5mmの幅で輪切りにすることができます。幅がうすい分だけ身体の小さな異常でも発見することができ、さらに鮮明な画像で表現することが可能となりました。また、以前は主に身体を水平方向に輪切りにした画像を用いて診断していましたが、ワークステーションを用いることで、任意の方向に輪切りにした画像を、簡単に作成することができ、病変をさまざまな角度から詳しく観察することが可能となりました。

また、診療支援のメリットとは「仮想空間上に臓器を再現することができる」ということです。CT検査で得られたデータを用いて仮想空間上に3次元的な「身体」を忠実に再現し、さらに特定の臓器や血管だけを選んで表示したり、距離、大きさや体積を測定したり、病気の場合に印をつけたりすることができます。それにより、仮想空間上の臓器を用いて事前に「どの場所を」、「どの方向から」、「どの機器を使用して」治療するかなど、綿密な治療計画を立てることが可能となりました。

以下に肝臓がんに対する実際の活用法をご紹介します。

1. カテーテル検査、治療の際の血管走行の把握

肝臓がんの検査に血管造影があります。足の付け根の動脈からカテーテルと呼ばれる細くて長い管を血管内に挿入し、血管の中をたどって、肝臓の中のがんの近くまで進め、カテーテルの先端から造影剤を注入してがんの状態を調べたり、薬や詰め物を注入して治療を行います。その際、人間の血管の走行には個人差があるため、目的の場所に到達するのに予想外に時間がかかったり、血管造影では主に体の正面から見た画像が得られるため、実際の肝臓がんと血管の3次元的な位置関係が分かりにくいという欠点がありました。

そこでCT検査の画像データを用いて事前に肝臓までの血管の走行や肝臓がんの位置に関する3次元画像を作成し、それらを参考にすることで、スムーズに目的の場所までカテーテルを進めることができます。その結果、正確で効果的な治療や、検査時間の短縮による患者さんの負担軽減が可能となりました。

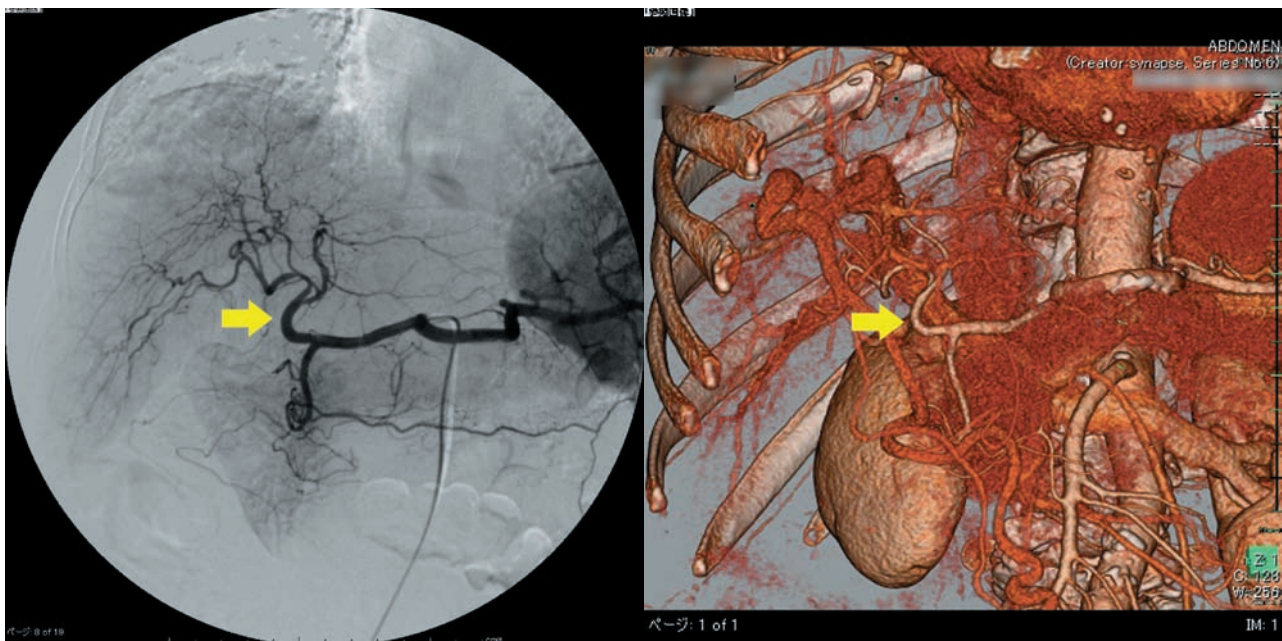


図1 実際の血管造影画像（左）とワークステーションを用いて作成した腹部の血管の3次元画像（右）。黄色い矢印が対応する同じ血管。

2. ラジオ波焼灼療法などの穿刺治療の補助

肝臓がんの治療にラジオ波焼灼療法があります。身体の表面から超音波（エコー）を当てて観察しながら、がんに向けて細い針を刺し込み、熱を加えて肝臓がんを「焼く」治療法です。超音波も1つの画像検査であり、リアルタイムな画像を見ることができるといったメリットはありますが、CT画像とは肝臓がんの見え方が異なったり、CT画像とは別の角度から観察するために肝臓がんを見つけ出すことが難しい場合があります。また、超音波は空気を含んだ臓器があるとそれより先は見えなくなるという弱点があり、全ての臓器を観察することができません。そのため、治療する肝臓がんの周囲に重要な臓器が隠れていても分からないことがあり、治療によって周囲の臓器に思わぬ傷害を引き起こすこともありえます。

そこでCT検査の画像データを用いて、超音波で観察した場合にどのように写し出されるかを再現する「仮想超音波（バーチャルエコー）」という技術を用います。これにより肝臓がんの正確な位置、大きさや周囲の臓器との位置関係などの情報を得ることができ、より安全かつ正確に治療を行うことが可能となりました。

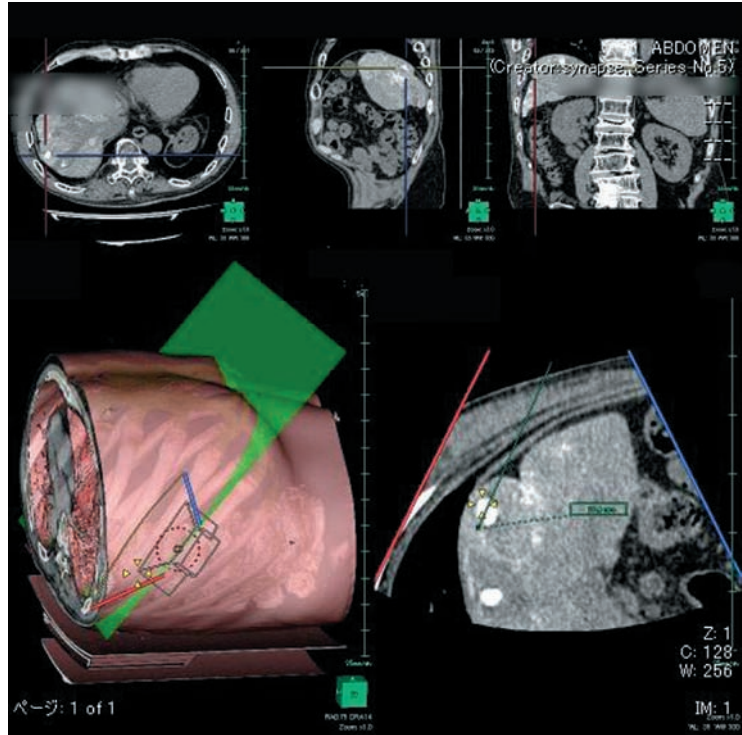


図2 仮想空間上に作成した身体に超音波を当てた時に（左下）、予想される超音波画像（右下）。病変までの距離を測定している。

3. ラジオ波焼灼療法後の3次元的な治療効果判定

ラジオ波焼灼療法の効果を判定するためにはCT画像を使用します。肝臓がんはその多くが球に近い形状をしています。ラジオ波治療に用いる針では楕円形にしか「焼く」ことができないため、肝臓がんを上手く治療できているかは3次元的な評価が必要となります。以前は身体を1方向から輪切りにした画像を見て、自分の頭の中で3次元的な画像を作って評価していました。しかし、ワークステーションを用いることで「上下」「前後」「左右」方向からの画像を簡単に見ることができ、以前より正確に治療効果を判断することが可能となりました。

今回の最新のCT装置とワークステーションの導入によって、肝臓がんの診断精度を向上させ、肝臓がん治療をこれまでよりもさらに安全かつ効果的に行うことが可能となりました。今後も肝臓がんに限らず、より質の高い肝臓病診療を提供できるようにさまざまな角度から努力して参りますので、何卒よろしくお願いたします。

内科医長 宮川 昌巳

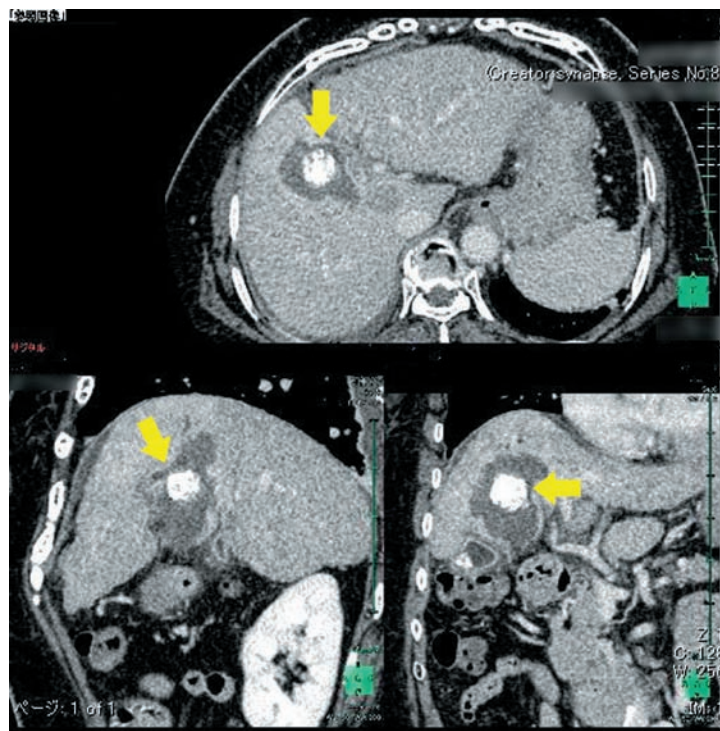


図3 カテーテル治療により白い円形に見える肝臓がん（黄色い矢印、全て同じもの）と、周囲に広がるラジオ波治療の範囲（黒い部分）を3方向から観察した画像。

糖尿病教室からのお知らせ

国際糖尿病連合によると、平成23年度の日本の糖尿病患者は、1067万4000人（成人人口9600万人中）であると報告されています。これを亀岡市にあてはめると、およそ8000人（成人人口約7万5000人）の方が糖尿病に罹っておられることとなります。糖尿病になると、目の網膜から出血したり目が見えなくなる**糖尿病性網膜症**、内臓の機能が悪くなったり手足のしびれ・感覚がなくなる**糖尿病性神経障害**、腎臓の機能が失われ人工透析が必要となる**糖尿病性腎症**といった**3大合併症**にかかられる方が多く、日常生活に支障をきたしておられます。これら糖尿病が起こす病気に罹らないためにも血糖値が高い方は診察を受け、適切な日常生活を送る必要があります。適切な日常生活を送ることにより、糖尿病が引き起こす多くの病気を予防することが出来ます。では適切な日常生活とはどんなことなんだろう？何をすればいいの？と様々な疑問があると思います。そういった疑問を解決する場として、当院では毎月「糖尿病教室」を下記のとおり開催しています。



1、糖尿病教室の目的

糖尿病患者様が糖尿病に関する病状や治療法を広く理解し、日常生活を送っていただくための必要な知識や注意点等を習得して頂くことを目的としています。また、参加者相互の情報交換も行っており、今後の日常生活の参考になると思われます。

2、参加対象

糖尿病患者様に限らず、その家族や現在糖尿病に罹っていなくても糖尿病に関心のある方の参加をお待ちしています。また当院での受診の有無にかかわらず誰でも参加していただけます。

3、参加費

無料です。

4、当教室のスタッフ

亀岡市立病院の医師・看護師および糖尿病療養指導士

<糖尿病療養指導士>

糖尿病患者様をサポートする指導者を養成するために設立された資格です。試験や、定期的に講習を受け、スキルアップを行っています。当院では、5名（管理栄養士1名、看護師1名、臨床検査技師1名、薬剤師2名）の糖尿病療養指導士がサポートしています。

5、糖尿病教室の日程 平成24年10月から平成25年3月までの糖尿病教室の予定

場 所：亀岡市立病院 2階 ウェルネスホール

時 間：13時から14時

| 日 程 | 講義内容 | 講 師 | 日 程 | 講義内容 | 講 師 |
|---------------------------|--------|---------------------|-------------------------|---------|-----------------------|
| 平成24年 | | | 平成25年 | | |
| 10月9日(火曜日) 10月19日(金曜日) | 糖尿病の話 | 松尾医師 (内科部長) | 1月8日(火曜日) 1月18日(金曜日) | 糖尿病と合併症 | 谷村看護師 (糖尿病療養指導士) |
| 11月6日(火曜日) 11月13日(火曜日) | 糖尿病と運動 | 辻医師 (運動器疾患センター長) | 2月5日(火曜日) 2月15日(金曜日) | 糖尿病と栄養 | 森管理栄養士 (糖尿病療養指導士) |
| 12月7日(金曜日) 12月11日(火曜日) | 糖尿病と薬 | 吉見薬剤師 (糖尿病療養指導士) | 3月5日(火曜日) 3月15日(金曜日) | 糖尿病と検査 | 原臨床検査技師 (糖尿病療養指導士) |

薬剤科 薬剤師 吉見 和 (糖尿病療養指導士)

当院初の認定看護師(皮膚・排泄ケア分野)が誕生しました

第一病棟で活躍中の山内 有香里 看護師が、約半年間にわたる研修と試験を経て、本年6月に当院初となる認定看護師(皮膚・排泄ケア分野)の資格を取得しました。そこで、今回、山内看護師をはじめ院内で関わりの深い関係者にお話を聞いてみました。

参加者 看護師 山内 有香里/外科部長 阿辻 清人/
看護部長 川口 小夜子
(聞き手 広報委員会事務局)

※以下敬称略



(左から川口・山内・阿辻)

(事務局) まずは、認定看護師の資格取得、おめでとうございます。では、最初に認定看護師制度とはどのようなものなのか教えてください。

(山内) 認定看護師制度は、日本看護協会が行っている資格認定制度です。認定看護師は、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用い水準の高い看護を実践し、看護現場における看護ケアの充実と質の向上を図ることを期待されています。

(事務局) では、数ある分野の中で、なぜ、一番に皮膚・排泄ケアの認定看護師を育成しようと考えられたのでしょうか。

(川口) 病院内には、褥瘡対策チームがあり褥瘡委員会があります。病棟では皮膚排泄ケアを円滑に進められる仕組みを作って活動を週に1回行っています。その中で山内さんは看護師の代表として活動を進めてきました。その活動は、すべての入院患者様に対する皮膚創傷ケアのリーダーとしての活動です。褥瘡が形成されていなくとも危険であることを予測し活動しています。その結果、平成23年度の入院患者様の新規褥瘡発生率は3.47%でした。また各部署での伝達講習などを年に5~6回行っており、新卒者には新卒者向けの内容でわかりやすい講習を行っています。ストーマケアは病棟入院中の患者様に限らず外来においても医師からの要請を受けて指導を進めています。このように皮膚・排泄ケアの領域は、すでに当院で実績を積んでおりましたので1番に育成を考えました。

(事務局) では、褥瘡委員会での活動を中心に、病棟看護師が行う皮膚や排泄のケアに関して、今までから積極的に支援され、また、褥瘡の予防や治療にも力を入れておられる医師の立場から、認定看護師として山内さんに期待されることを教えてください。

(阿辻) これまで褥瘡のケアは経験と勘にたよりがちでしたが、当院では適切な褥瘡医療を提供するために、多職種によるチームをつくって活動しています。この度、山内看護師が認定看護師としてチームに加わることで褥瘡医療における指南役としての役割を期待しています。

(事務局) それでは、実際に病棟看護を行っている中で、資格を取得する前と後で、何か変化はありましたか。

(山内) 褥瘡ケアやストーマケア、オムツのケアに関して、スタッフや医師から相談を受けたり、情報を提供してもらう機会が増えました。それに伝える自分自身の言葉や行動の持つ重みを実感する事が増えました。相談には的確に応じ、学んだことをスタッフと共有して、質の高い看護を実践できるように今後も努力が必要だと感じています。

(事務局) 話しは変わりますが、その他にも看護部では、質の高い看護の提供を目指して、様々な取り組みをされておられますが、今回の認定看護師誕生を機会に、何か新しい取り組みを考えておられますか。

(川口) 他の分野(糖尿病看護や緩和ケアなど)でも認定看護師の役割を既に果たしている看護師がおりますので今後は、さらに入院・外来を問わずすべての患者様に、看護師の持てる看護ケアの力が十分に活かせるよう外来看護相談等を開設する方向で調整を行いたいと考えています。

(事務局) 最後に、今後の抱負や目標について教えてください。

(山内) 認定看護師としては所属する病棟に限らず、横断的に活動する事が必要だと感じています。まずは入院中の患者様に対して提供する看護ケアの質の向上を図れるよう活動を続けていきたいと思えます。そして、患者様が退院された後も地域で安心して療養できるように活動の範囲を広げる必要があると感じています。それは病院内に相談をお受けする窓口を設置したり、地域医療を支える医療職の方々と連携することにあると思えますので、その一助となれるよう、努力したいと思います。

(事務局) 本日は、ありがとうございました。今後の活躍を期待しています。



ふれあい看護体験

ふれあい看護体験は、5月12日の「看護の日」の事業として、毎年開催されています。患者様とのふれあいを通して、看護することや人の命について理解と関心を高めることや、看護に興味を持ち看護の道へと進むきっかけになればと願って、今年度4人の高校生に看護体験をしていただきました。手浴や食事介助などの体験終了後、「専門職としてやりがいの持てる職業だと感じたので、将来は看護師になりたいと強く思った」「患者さんから感謝の声を直に聞いて感激した」などの感想を聞くことができました。



病院実務実習を終えて

薬学部が6年課程となり、5年次に病院、薬局と実務実習が必須となりました。今回病院実習として2ヵ月半の間、亀岡市立病院でお世話になりました。学校で学ぶ内容以外に、特に臨臨床的なことを中心に教えていただき、これから薬剤師になるにあたって病院薬剤師として必要なこと、そしてやりがいを学びました。特に私が一番興味を持てたことは、病院内のチーム医療についてでした。チーム医療とは医師、看護師、検査技師、栄養士、そして薬剤師など様々な病院の職員がそれぞれの専門性を発揮し、患者様を中心にして最適の医療を提供することです。このチーム医療に参加させていただいたことでより薬学的知識が身に付き、また患者様との距離も近づけたことから、医療の現場での大変さ、そして命の大切さも感じ取ることができました。私自身、実習を開始する以前から将来の就職希望として病院を考

えており、亀岡市立病院で学び、体験したことによりその思いはより一層強いものとなりました。このような素晴らしい環境で実習のある実習を送らせていただいたことを心から感謝いたします。最後になりましたが、実務実習中は、病院職員の方、そして何より患者様には快くご協力頂き、また励ましの言葉をかけていただいたこと心から感謝しております。将来、一医療人として患者様のためにある薬剤師になりたいと思います。



摂南大学 薬学部 5年生 水口 直紀

病院職員紹介



看護部
看護師
松下 由佳

私の好きなこと

普段から飽きやすい性格で、あまり長続きしない私が唯一今でも楽しんでしている事、それが「縄跳び」「マラソン」「散歩」。疲れている時こそ、私の気分転換とストレス発散になります。昔はバレーボール部やテニス部に入っていて、元々体を動かす事は好きでしたが部活の引退がきっかけで、体力が落ちる不安から縄跳びとマラソンを始めました。しかし、運動は好きでも長距離走だけは手の苦手で毎回順位は下位の方。でも、それが悔しくて毎日1～2時間、縄跳びでトレーニングを続けるうちに、こんな私でもみるみる持

ちがつかけて走ることが楽しくなりました。今でも縄跳びは自信があります。歩くことも大好きです。看護学生の3年間、片道約1時間の徒歩通学がとても充実していたのに、今はなぜか2～3分の通勤距離しかないことが残念でありませんが、だからこそ余裕のある時は時間も距離も気にせずブラブラ散歩に出掛けます。果てしなく歩きながら、仕事の事、楽しい事や悔しかった事、色々な事を考えたり悩んだり出来る私の好きな時間です。昨年11月、私は職場の先輩2人と丹波高原マラソンにでました。11年ぶりのロードレース。10kmに出ましたが、順位も自分が思っていた以上の結果！しんどかったけど楽しかったです。今年は膝を負傷をしたせいで、まだ真剣に練習に取り組めておらず出場できるか分かりませんが、出来たら出場して楽しく走ります。そしていつかは、ハーフ、フルマラソンに……。スポーツの秋がきました。皆さんも無理のない程度に運動して下さい。体力低下も防げるし、気分転換にもなりますよ。

地域連携医のご紹介

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。

そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

井上耳鼻咽喉科医院

院長:井上 功

住 所: 亀岡市篠町広田2-20-13

T E L: 25-8733

標榜科目: 耳鼻咽喉科

診療時間: 午前 9:00~12:00、午後 4:30~7:30

火曜日の午前、水曜日・土曜日の午後、

日曜日・祝日休診

院長より一言

亀岡市立病院は周知の如く、市民からの要望にて医療圏域で完結する医療体制を目指して2004年6月に開院されました。8年を経過した今、関係者の皆様がこの目的を達成するために努力を重ねられ、幾多の苦難を乗り越えてこられたのだと察します。当方は国道9号線の南側の耳鼻咽喉科医院として1997年9月に開業させて頂き、15年になります。ちょうど市立病院の開院前7年、開院後8年の様子を見守らせていただくこととなりました。私どもは耳鼻咽喉科の単科標榜ですので、耳鼻咽喉科の存在しない亀岡市立病院には紹介させていただくことはほとんどなく、京都市、南丹市などの病院へ紹介することを余儀なくされています。折角、亀岡市民が望んで設立され、多くの方々の尽力で運営されている市立病院と十分かつ密接な連携を取れているとは言い難く、お恥ずかしい次第です。しかし食事摂取の出来ない扁桃炎や歩行困難な眩暈、止血困難な鼻出血などではどうしても入院設備のある耳鼻咽喉科でなければ対応できず、あちらこちら探すのですが、病院はなかなか受け取ってくれず平身低頭して頼まねばならず、患者さんは遠いので行くのを嫌がりその説得に苦心惨憺している毎日です。当院は別段、特徴のある医院ではなく、恐らくどこにでもある無床の耳鼻咽喉科診療所ですが、市立病院とともに不惜身命、自らの役割を果たしていく所存です。



ひがしはら内科眼科クリニック

院長:東原 博司

住 所: 亀岡市北町 5 7-1 3

T E L: 55-9860

標榜科目: 内科、眼科、消化器内科、糖尿病内科、在宅医療

診療時間:

○内科 午前9:00~12:00、午後5:30~7:30
水曜日、土曜日の午後および日祝日休診

○眼科 午前9:00~12:00、午後1:30~4:30
水曜日、金・土曜日の午後および日祝日休診

院長より一言

平成23年5月に亀岡市北町で内科医の私と眼科医の妻とで開業しました。亀岡市立病院には開業前にほんの少しの期間ですが内科常勤医として勤務し、現在も非常勤医として、糖尿病を中心とした外来や消化管内視鏡検査、日当直をさせていただいております。当院でも胃・大腸内視鏡検査をしており、入院治療が必要な場合には亀岡市立病院に紹介し、大変お世話になっております。CTやMRI検査が必要な場合はクリニックから電話ですぐに予約ができ、夜診時間帯でも事務当直の方が対応され、非常に助かっています。在宅医療にも積極的に取り組んでいますが、患者さんの具合が悪くなり入院が必要な場合には救急を受け入れてくださり、医師による的確な治療や看護師さんをはじめメディカルスタッフによる十分なケアを受けることができ、患者さん共々非常に有難く思っている次第です。

当院の眼科では角膜、ドライアイ、白内障、緑内障、網膜疾患、コンタクトレンズと眼科全般の診療をしております。白内障手術が必要な場合には、永田健児先生に紹介してもらい非常に助かっております。当院ではOCT (optical coherence tomography) という光干渉断層計装置を導入しており、これまで行えなかった網膜の断面の観察が出来るようになり、網膜疾患、特に黄斑部病変の診断が正確に下せるだけでなく、緑内障の早期発見や進行状況を把握する上でも有用です。亀岡市立病院からもOCTの紹介患者さんを受けており、出来るだけ詳細な所見や診断をつけて報告するよう努めております。

これからも亀岡市立病院と病診連携を密にし、亀岡の地域医療に少しでも貢献できるよう尽力していきたいと思っております。



編集後記

爽やかな秋風が吹き、休日には市内各所で運動会のかけ声が聞こえるようになった今日の頃ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

さて、当院広報誌「桔梗」も2009年(平成21年)9月に産声をあげ、今回、早くも第10号を発行することが出来ました。振り返れば、私たちの病院を皆さんに良く知って頂こうということで、広報委員会の委員が中心となって知恵を振絞り、様々な情報を掲載して参りましたが、少しでも皆さまのお役に立てていれば幸いです。今後も、第20号、第30号・・・そして第100号と、職員一同楽しく、親しみやすい誌面づくりに努めて参りますので、未永く当院広報誌「桔梗」をご愛読頂きますようお願い申し上げます。

広報委員会事務局 岡田 康宏(病院総務課)

編集委員からのお知らせ

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させていただきます。
テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちしております。
採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等をご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院 病院総務課 岡田(平日、午前10時から午後3時まで)



JR馬堀駅から徒歩約5分/京都縦貫道篠インターから車で約5分/駐車(輪)場有

亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1
TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>

「がんばろう日本」～亀岡市は東日本の復興を支援します～